

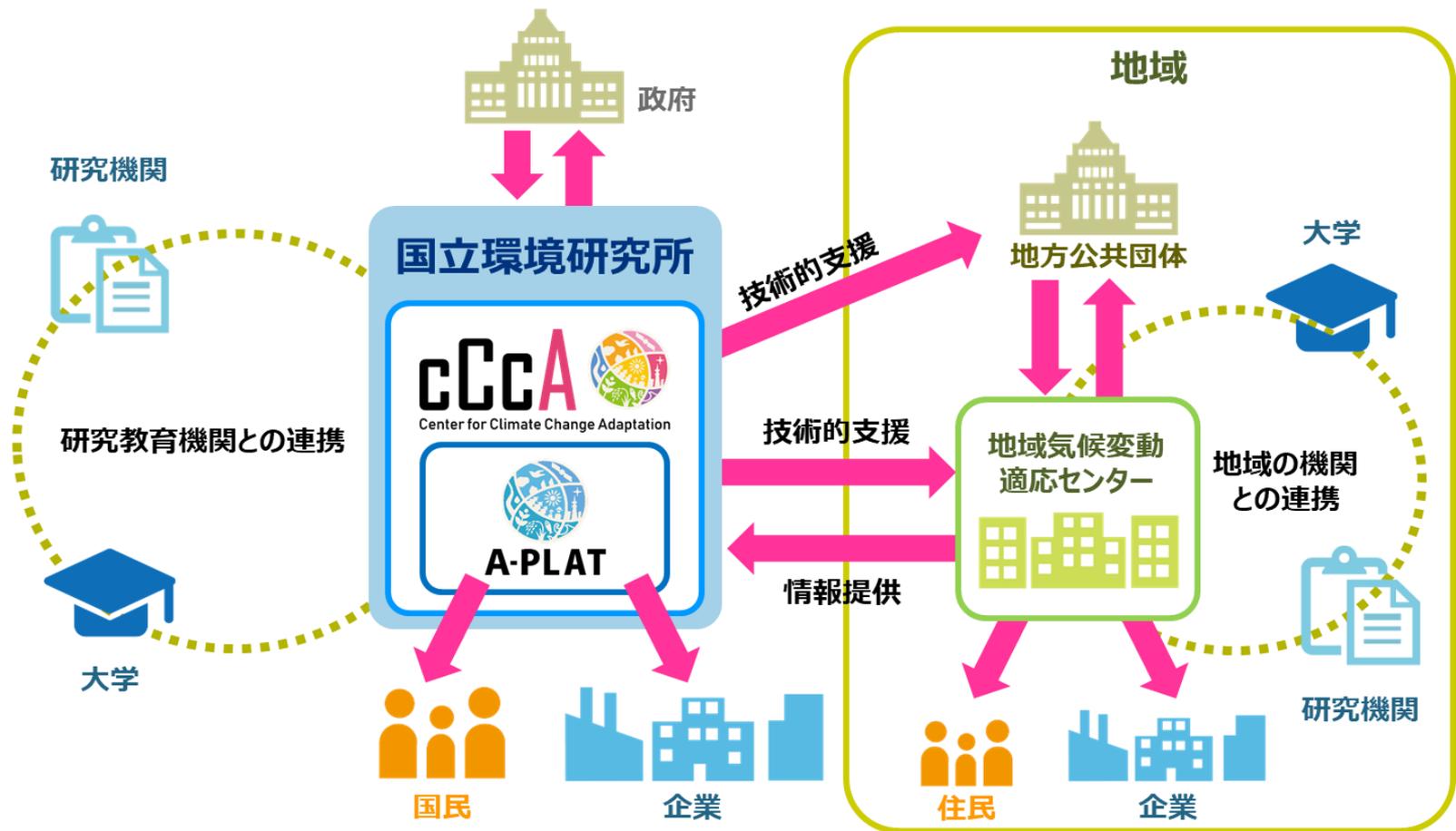
気候変動適応に関する情報提供についての 気候変動適応センターの取り組み

国立環境研究所気候変動適応センター

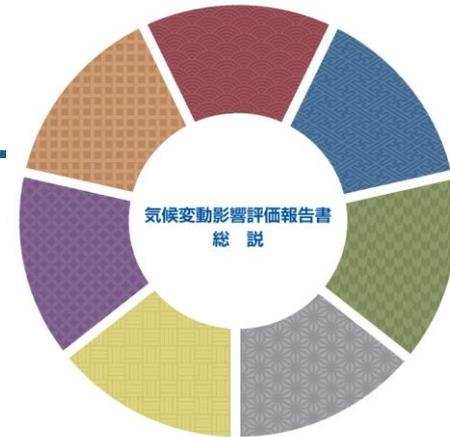
真砂 佳史

気候変動適応センターの役割

- 地方公共団体・事業者等の適応実施主体が気候変動影響を「理解」し適応を「実践」することを支援



影響・適応に関する知見の構築・提供



- 気候変動影響評価報告書（2020.12.17公表）
 - 科学的知見（学術論文等）を7分野71項目で整理
 - 重大性・緊急性・確信度を評価

4 気候変動による影響の評価（一覧表）

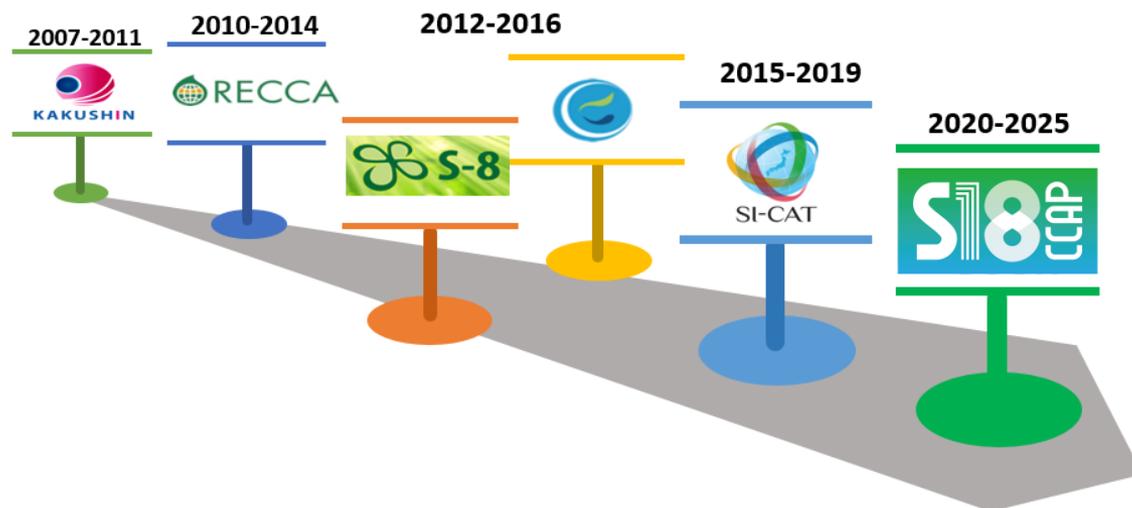
令和2年12月

凡例									
【重大性】	● : 特に重大な影響が認められる	◇ : 影響が認められる	— : 現状では評価できない	(観 点)	社 : 社会	経 : 経済	環 : 環境		
【緊急性】	● : 高い	▲ : 中程度	□ : 低い	— : 現状では評価できない					
【確信度】	● : 高い	▲ : 中程度	□ : 低い	— : 現状では評価できない					
分野	大項目	小項目	現在の状況	将来予測される影響	重大性		緊急性	確信度	備考
					観点	判断理由			
農業・林業・水産業	農業	水稲	<ul style="list-style-type: none"> 既に全国で、気温の上昇による品質の低下（白米熟粒の発生、一等米比率の低下等）等の影響が確認されている。また、一部の地域や極端な高温年には収量の減少も見られている。 一部の地域では、気温上昇により生育期間が早まることで、登熟期間前後の気象条件が変化することによる影響が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に2061～2080年頃までは全体として増加傾向にあるものの、21世紀末には減少に転じるほか、品質に関して高温リスクを受けやすいコメの割合がRCP8.5シナリオで著しく増加すると予測されている。 高温リスクを受けにくい（相対的に品質が高い）コメの収量の変化を地域別に見た場合、収量の増加する地域（北日本や中部以西の中山間地域等）と、収量が減少する地域（関東・北陸以西の平野部等）の偏りが大きくなる可能性がある。 RCP2.6及びRCP8.5の両シナリオにおいて、2010年代と比較した乳白米の発生割合が2040年代には増加すると予測され、一等米面積の減少により経済損失が大きく増加すると推計されている。 CO₂濃度の上昇は、施肥効果によりコメの収量を増加させることがFACE（開成系大気CO₂増加）実験により実証されているが、CO₂濃度の上昇による施肥効果は気温上昇により低下する可能性がある。 将来の降雨パターンの変化はコメの年間の生産性を変動させ、気温による影響を上回ることも想定される。様々な生育段階で冠水処理を施した試験では、出穂期の冠水でコメの減収率が最も高く、整粒率が最も低くなることが示されている。 	<p><RCP2.6及び2℃上昇相当></p> <p>●</p> <p><RCP8.5及び4℃上昇相当></p> <p>●</p>	<p>社経</p> <p>コメの収量・品質の変化の影響の範囲は、好影響も含め全国に及び、我が国の主食としての供給及び農業従事者の収入の増減に直接影響する。また、将来ではRCP2.6及び2℃上昇相当でも全国的に品質低下が進む可能性は高く、今後のコメの経済価値の減少が危惧される。さらに、強雨の増加や降雨パターンの変化に伴う冠水による減収も懸念される。</p> <p><RCP2.6及び2℃上昇相当></p> <p>全国的には品質低下、さらに品質低下による経済損失が予測されている。フィールド実験では、気温上昇によるCO₂の施肥効果の低下、水温上昇による品質低下が示唆されている。</p> <p><RCP8.5及び4℃上昇相当></p> <p>全国的な収量は、21世紀中頃までは増加が予測されているが、21世紀末では減少が予測されている。そのほか、著しい品質低下、品質低下による経済損失が予測されている。</p>	●	●	

気候変動影響評価報告書（詳細） p.298

影響・適応に関する知見の構築・提供

- 影響予測に関する研究プロジェクトへの参画・協力



- 環境省の各種事業への協力
 - 気候変動適応における広域アクションプラン策定・実施事業
 - 国民参加による気候変動情報収集・分析事業

気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）

- A-PLAT：科学的知見を「情報」に変換して提供
 - WebGIS形式
 - 各省庁の関連施策
 - TCFD関連情報 など



A-PLAT
気候変動適応情報プラットフォーム
CLIMATE CHANGE ADAPTATION INFORMATION PLATFORM

気候変動と適応 | 国の取組 | 地域の適応 | 事業者の適応 | 個人の適応

気候変動適応とは
一番分かりやすい「気候変動適応」の解説。いくつかの例とともにご紹介します。

国の取組
気候変動への適応に関する政府全体の取組を紹介いたします。

地域の適応
私たちの地域の適応 A-PLAT

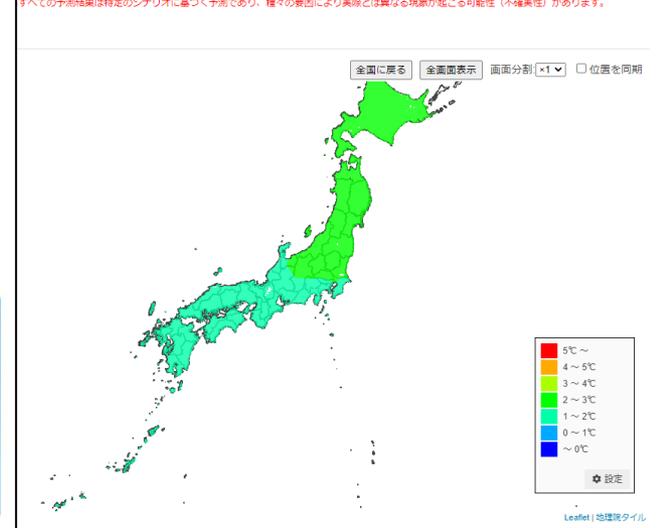
事業者の適応
Next Business with A-PLAT

個人の適応
こんにちは 適応策 A-PLAT

気候変動影響への適応は、それぞれの地域特性を考慮した取組が重要です。A-PLATでは地域気候変動適応計画の策定や地域気候変動適応センターなどにおける情報拠点の最新動向をはじめ、科学的知見を活かした地域の適応推進を目指していきます。

「事業者の適応」では、事業者向けの気候変動適応情報をご提供しています。事業者向けの情報・資料、取組事例、イベント等を確認できます。事業活動における適応の取組を進めるためにご活用ください。

真夏日、猛暑日比以前よりも多くなった、大雨による浸水被害が増えているなど気候変動の影響を実感している方は少なくないのではないでしょうか。誰もが安心して暮らせる社会を作っていくために、気候変動影響への「適応」について一緒に考え、そして行動していきましょう。



A-PLATファミリー

- A-PLAT：科学的知見を「情報」に変換して提供
 - WebGIS形式
 - 各省庁の関連施策
 - TCFD関連情報 など
- A-PLAT Pro：研究者・影響評価実施者向け
 - 気候シナリオ（1kmメッシュ・バイアス補正済み）等の提供
- A-PLAT Lab：地域気候変動適応センター向け
 - LCCAC-CCCAのネットワーク・コミュニケーション
 - 適応に関するニーズの発掘
 - 機能の共同開発

アジア太平洋気候変動適応情報プラットフォーム (AP-PLAT)

- アジア太平洋地域の政策決定者が想定ユーザ

 **AP-PLAT** CLIMATE IMPACT VIEWER
Asia Pacific Climate Change Adaptation Information Platform

Map

Data Description

1. Data Set MOEJ S-10 project

2. Category Climate

3. Index Temperature

4. Climate model MIROC-ESM-CHEM

5. Scenario RCP 8.5

6. Period End of 21th century

7. Transparency 60 %

Background layers

1. Background Google Maps

Remarks

-

